



第1号 2018年11月発行 松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

ご挨拶 松阪地域在宅医療・介護連携拠点

平成30年4月に松阪地域在宅医療・介護連携拠点が松阪地区医師会館1階に開設されました。連携拠点の役割は、在宅医療・介護に関わる専門職の方々の支援です。事業内容は、情報の見える化や多職種勉強会の開催、情報共有支援など、多岐にわたりますが、松阪地域(松阪市・多気町・明和町・大台町)の在宅医療・介護の連携が円滑に進むよう、専門職のみなさまのお役に立てるよう努めてまいります。どんなところで何をしているんだろう・・・と関心をお持ちの方は、お気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。今後ともよろしく願い申し上げます。

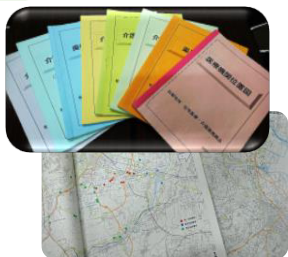


看護師
 横山 優
 小さなところにもよく気がつく、しっかり者

社会福祉士
 潮田 元美
 元気と前向きさは自他ともに認めるところ

事務員
 森 久夫
 気配り抜群。超ベテラン事務員

松阪地域の医療機関や介護事業所の所在地をマップにまとめた資料を作成しました。利用者さんの周辺にある資源を探したい時に地図上で見ることができます。A3サイズの大きな地図です。今後、次にご紹介するICTのシステム内でも見られるように準備をしていきたいと考えています。



多職種連携のための情報共有システムが開始しました

ICTと呼ばれる通信技術を活用し、地域の在宅療養を支える多職種間の情報共有のための支援を開始しました。7月～8月に数回にわたり説明会を実施し、使用登録者数は、現在300名を超えました。このシステムを導入するまでの経緯について、実際に取り組みを進めてくれた石川氏のお話をご紹介します。



三雲地域振興局 局長 石川 圭一氏
 (前 松阪市健康福祉部 高齢者支援課 課長)

在宅療養に寄り添う「医療介護関係者」のICT導入による情報共有の経緯

2014年度の医療介護総合確保推進法の成立を機に、車の両輪とも言われる「地域包括ケアシステム」と「地域医療構想」推進の流れは速まっています。一方で、現状は解決すべき課題が数多くあります。なかでも在宅療養が必要な方にとって、医療介護にかかわる様々な専門職の連携は重要です。在宅療養中の患者のなかには、心身の状態変化が出やすい方もみえ、早い段階で患者情報を共有すれば、患者本人にも負担は軽く、ケアする側にとってもスムーズな対応が可能となります。

しかし、その連携を深めると言っても、専門職の方は日々仕事に追われ、特に医療のキーマンとなる医師にとっては診療時間中にかかる電話に出れないことも多く、タイムリーな連携が難しい状況にありました。

この課題解決に対して一役担うのがSNS機能を持ったICTによる情報連携です。

ただし、ICTの活用に先駆的に取り組んだ自治体や医師会などから、個人情報への扱いに加え、手間や費用の負担問題、またシステム自体に多くの情報や機能を詰め込みすぎると実際の現場で活かしにくい、操作の習得にも苦労して結果的に利用が広がらない、といった問題が提起されていました。

松阪市では2015年度から様々な情報収集を図りつつ、医師会などと一緒に先進地視察を行うなど、医療介護の現場に関わる方々と協議を重ね、2018年度から、株式会社カナミックネットワークが手掛ける「医療・介護多職種連携情報共有システム」を導入することとしました。

同社提供の今回のシステムは、クラウド型でメンテナンスも容易といった点はもちろん、既に多くの自治体で導入されブラッシュアップを経て、初心者でも分かりやすく操作性も良く安価である点も大きな魅力と感じております。

今後は、この情報共有ツールが普及し、在宅療養を希望される方の安心とともに、医療介護関係者の負担軽減につながることを願ってやみません。



利用者さんを中心とした情報共有だけではなく、今後在宅医療・介護に関わる専門職のみなさんにご活用いただけるような情報も掲載していく予定です。情報共有システムの手続き等に関するお問い合わせは、連携拠点まで。

第9回 多職種勉強会を開催しました！

9/7(金)に『ポリファーマシー(多剤投与)を知って、みんなで考えよう！』をテーマに多職種勉強会を開催しました。

医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師、保健師、リハビリ職、管理栄養士、介護支援専門員、介護職など松阪地域の医療と介護の専門職146名の参加がありました。ポリファーマシーとは何か、ポリファーマシーを防ぐ方法とは、日頃どんなことに気を付けたらよいかなど、それぞれの職種の視点をグループで共有することで、今後の現場での気づきにつながる勉強会となりました。

多職種勉強部会の部会長でもあるお二人のメッセージをご紹介します。



松阪・多気地区地域リハビリテーション連絡協議会
会長 木村 圭佑氏

多職種勉強部会・第9回多職種勉強会について

2018年より多職種勉強会の企画・運営を検討する部会を設置し、部会長の黒井氏とともに活動しています。9月7日には、第9回多職種勉強会「ポリファーマシー(多剤投与)を知って、みんなで考えよう」を開催し、専門職をはじめ地域でご活躍されている146名の方にお集まりいただきました。講演では薬剤師より、複数多科受診による薬剤の重複や副作用への薬剤投与、飲み忘れ等による薬効不十分な状態への過剰投与が背景にあるとの説明がありました。解決に向けて地域での多職種連携の促進、具体的には多職種でお薬手帳の活用や残薬管理、そして当事者や支援者の「気づき」が重要であると訴えられていました。

相談窓口を開設しています

連携拠点では、在宅医療や介護に携わる専門職の方々からの相談をお受けしています。4～10月までの相談件数は、42件です。ご相談の内容は、次のとおりです。

相談内容によって、関係する機関につなげたり、情報提供等を行っています。窓口や電話等で受け付けておりますので、在宅で療養を希望される方の医療・介護のサービスに関する情報や連携でお困りの際は、ご相談ください。

医療系サービス	22件 / 46%
介護系サービス	9件 / 19%
上記以外のサービス	4件 / 8%
ICT関連	3件 / 6%
その他	10件 / 21%



松阪地区歯科医師会 理事 黒井 建志氏
多職種勉強会の展望

これまで多職種勉強会には毎回200名ほどの医療介護の専門職が集まり、多くのテーマで地域の高齢者を支える取り組みを議論してきました。そこに集まる参加者は、各々の職種で日々の臨床に熱心に携わる方々であり、参加者同士の顔の見える関係作りが自然とできてきています。今後は少人数の連携で、地域の実際の問題を解決する、つまり「結果を出す！」事例が多く出るようにしていきたいと思います。部会としては、従来のグループワークだけでなく新しい手法にも挑戦をして、より結果の出せる勉強会を企画立案していきます。

そして、このような他地域に比しても素晴らしい連携があることを市民の皆様にも広く知って頂くことで、自助互助を大事にしながら、皆で高齢者を支えられるまちづくりができるのではと思います。この輪にこれからどんどん色々な方が参加して下さることを願っております。

広報まつさか12月号「高齢者の暮らしを考える」の連載ページにも今回の多職種勉強会の記事が掲載されています。ぜひご覧ください。



第10回多職種勉強会のご案内

日時：平成31年2月1日(金)19:00～21:00
会場：済生会松阪総合病院 7階講堂
今回は、連携拠点と医師会からの話題提供を予定しています。
内容については、部会で検討中です。
案内ができ次第配布いたします。
みなさまのご参加をお待ちしております。



あとかき ♪♪♪♪♪♪♪♪
という和音にちなんで、松阪地域における多職種連携の輪が広がるようにとの思いを込めて名付けました。広報紙を通じて連携拠点の取り組みのご報告をお届けします。次回は夏頃を予定しています。

松阪地域在宅・医療介護連携拠点
〒515-0076 松阪市白粉町363番地
(松阪地区医師会館1階)
TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071
メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp
◇月～金 9:30～16:00◇
(祝日・年末年始を除く)